

# 1. 評価結果概要表

作成日 2007年10月10日

【評価実施概要】

事業所番号	1271500975
法人名	社会福祉法人和光会
事業所名	グループホームもばら和光苑
所在地	千葉県茂原市鷲巣456-1 (電話) 0475-27-1113

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成19年9月26日	評価確定日	11月14日

【情報提供票より】(19年8月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年9月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 8人, 非常勤5人, 常勤換算7.97人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り
	1 階建ての 1 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	70,000 円	その他の経費(月額)	水光熱15,000 + 食39,000 + 実費	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(8月31日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	1 名	要介護2	8 名		
要介護3	7 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	75 歳	最高	100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	聖光会病院
---------	-------

特定非営利活動法人コミュニティケア研究所

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

社会福祉法人和光会を母体とする2ユニット、開設2年目のホームであり、デイサービスが隣接している。概観は白を基調とした木造平屋で清潔感がある。今年増設した2ヶ所のウッドデッキは入居者に更なる安らぎを提供している。外部には一部未整備の空間が見られるが、玉砂利を敷いたり、花壇等を設置する計画である。内部は明るく、リビングの天井は高くゆったりしている。職員の対応はソフトで入居者との信頼関係が伺える。同法人特養の長年の経験が活用されており、ホームでのターミナルケアも可能なため、安心して「終の棲家」とすることが出来る場所である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の主なる指摘事項であった理念の明示については、改善され見やすくなっている。申し送り事項の確認は日付、署名がなされていた。また周辺施設等の理解・協力への働きかけは、消防以外に町内会、小中学校の交流等改善がなされている。その他の事項も改善が見られる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、まず管理者から職員に趣旨を説明し、職員が個々に意見を出して皆で作成した。外部評価についても、ホームが地域に密着し、入居者がその人らしく生活するための、質保持・向上の仕組みとして、職員全員が理解している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は、行政、町会等の有識者に声をかけ、昨年1回開催した。しかし出席者からの発言が少なく、ホームの説明に終始した為、会議の必要性に疑問を持ったとの事である。以降、運営推進会議は行っておらず、今後も開催は考えていない。その代わり2ヶ月に1回の介護者教室、入居者会議を実施している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族の意見、苦情、不安への対応はポストの設置で対応しており、記入用紙もポストの脇に置いてある。家族訪問時には積極的に職員がヒアリングすることを重視し、実行している。また、対応の記録もされている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	入居者の希望に沿い、外出を積極的に行っている。入居者の殆どが地域住民で近所に顔見知りが多い。町内会の盆踊り等、地域行事への参加や買い物等を通じて地域により深く溶け込み、理解しあう関係が構築されている。緊急時や徘徊への対応も話し合われている。

## 2. 評価結果 ( 詳細 )

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「信用、信頼、安心」の理念に基づき、日々のケアサービスを提供している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は職員に周知徹底している。毎月の職場会議だけでなく、日々のケアで気づいたことはすぐに話し合い、信用・信頼・安心の実現に結びつけるようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	積極的に地域交流している。入居者の殆どが地域の出身であり、敬老会・夏祭り・運動会・文化祭等、ごく自然に地元の人と交流できている。また近隣者のホーム敷地内への出入りも自由である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービスの質向上・改善のために、外部からの指摘を前向きに受け入れる姿勢を持っている。第三者の気づきや視点を有効に活用していく考えである。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年度、町会長、老人会会長らの参加により開催した運営推進会議はホームの説明に終始し、意見交換がなされなかった。ホーム側は会議の設置そのものに疑問を感じ、以降開催していない。代わりに年6回の介護者教室、入居者会議、家族会議を開催し、そこでの意見をサービスの質の向上に活用している。		運営推進会議の設置意義に疑問を持ち、実施を止めたとのことだが、わずか1回で結論を出すのは早急かと思われる。入居者会議、家族会議は何れも内部の自己完結型会議であるので、地域密着の趣旨を考慮し、外部への報告、外部との意見交換のため会議の再開が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村の介護保険課、老人福祉課、生活保護課の担当者との交流は密であり、来苑も多く、相互の信頼関係が構築されている。行政とホームは相互理解の関係にあり、共同してサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の健康状態の変化は、時間に関係なく家族に電話連絡し、信頼、安心に努めている。日々の暮らしぶり、職員の新規採用、誕生会、旅行等は毎月の「苑便り」に写真満載で伝えている。金銭管理は出納帳に入出金、残高を記録し、毎月家族に報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ユニット名を1丁目、2丁目とし、それぞれに投書用ポストを設置している他、来訪者記録にも自由にコメントを書くことができる。これらの意見をホーム運営に反映するよう努めている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	結婚等で現任職員が退職した場合、新入職員は入居者との早期の信頼関係構築のため、挨拶回りを速やかに実施するなど、職員の入替わりによるダメージを最小限度にするよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業計画書の中で年間の研修計画を作成し、職員の経験に応じた内部研修、外部研修が実施されている。法人全体で研修の機会均等が確保され、職員の介護福祉士資格取得を積極的に推奨している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人事務長は(社)千葉県高齢者福祉施設協会の認知症高齢者グループホーム分科会会長の任にあり、同業者との交流を持っている。しかしながら同分科会は一部法人のみの会であり、幅広い交流の機会とはいえない。		事務長のみならず、ホーム管理者・職員も、法人を限定されない様々な同業者と交流する機会を持ち、意見交換することが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>先ず入居者の緊張感をほぐし、職員の顔を憶えてもらうために家庭訪問を実施する。顔見知りの関係になったらホーム見学、隣接のデイサービス利用などを通じて、徐々に慣れてもらうよう、段階を踏んで支援している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>調理などの家事や、行事の餅つき等を職員・入居者で行っている。一緒に活動する際は、入居者の経験や技量を活かすように努めている。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居時のアセスメントで入居者の希望・思いを把握するとともに、日々のケアの中でも常に意向を吸い上げて記録に残している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>カンファレンスで入居者・家族の望みや、職員それぞれの気づきを意見交換し、入居者に関する情報の共有化に努め、介護計画に反映している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>個別記録に入居者の日々の様子を記入し、それを基に介護計画を定期的に見直している。変化があった場合は随時見直す。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院介助はもとより、お墓参り等、入居者個々の希望に応じた外出支援も積極的に行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	殆どの入居者が入居前からのかかりつけ医を持っており、通院への支援を行っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時からターミナルケアを視野に入れている。終末期の対応については家族と随時話し合いを行っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	研修を通して、言葉遣い、個人情報の取扱いに関して周知徹底を図るようにしている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間が遅い入居者は、時間をずらして朝食を取ってもらっている。毎日のように自分の田んぼを見に行く入居者もいるが、職員は根気良くつき合っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえや、食後の食器洗いなど、入居者がその能力に応じて各自参加している。また職員も同じテーブルにつき、会話を楽しみながら、さりげなく食事のサポートをしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、入浴可能ではあるが、入浴の時間帯は決められている。職員は入居者の体調や希望によって臨機応変に対応しており、入浴計画を無理強いすることはない。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみや、調理の手伝い等、入居者それぞれの力や好みに合わせた役割を支援している。本人の希望により毎日散歩に出かける入居者もいる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買物や行事等、外出の機会が多い。気候の良い時期には、お弁当を持って、戸外に出かけることもある。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけていないので、出入自由である。外に出ていく入居者には、必ず職員が後ろからついていくようにしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練を実施し、食料、水も確保している。しかしながら非常災害時の地域協定等はやや不十分である。		火災や地震等、災害時には地域連携が不可欠となる。もしもの場合について、日ごろから近隣住民とホームとで話ししておくことが必要と思われる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取状況は個別記録に残し、栄養面に心配がある場合はすぐにかかりつけ医に相談している。水分補給が十分でない入居者には、ゼリー状にして嚥下しやすくする等、工夫をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	スペースは十分で、入居者は個々に居場所を見つけることができる。出来たばかりの広いウッドデッキで食事をすることも考えている。今後、デッキがどのように活用されていくのか楽しみである。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者一人ひとりが思い思いの家具を持ち込み、個性的で居心地の良い空間を作っている。中には、畳にしている部屋もある。		